

## 「テラブレーション平和の語り」を再び、日本橋で！

植田たい子（埼玉県蕨市）

Telling（語り）と Celebration（祝典）をつなぎ合わせたテラブレーションは全日本語りネットワークが掲げる活動の一つです。毎年開催されているので皆さんもご存じと思います。2018年度は初めて中央区立日本橋図書館が会場になりました。（当時の記録は当会ニュース 2019年1月26日発行69号で読むことができます）当時は理事の一人でしたので区教育委員会の後援手続きを担当したりしました。代表住所は山形、事務所は国分寺、会員は全国ですから後援の認可に時間がかかったのを覚えています。



2018/11 テラブレーション

それから7年、時を経て、全日本語りネットワークから再び同じ会場で「テラブレーション平和の語り 2024」を11月24日に開催したい旨の話が届き、図書館とネットワークとの取次ぎを担うことになりました。引き受けたのは今も図書館とは縁があるからです。この機会を通し館長の語りへの理解を深め、また前回の反省も生かしたいと思ってのことでした。図書館との共通理解も得られ、理事の方と図書館との打ち合わせ会も実現し、全日本語りネットワークと日本橋図書館が連携共催し、ご当地ということで前回同様「にほんばし語りの会」も協力させていただく方向で話がまとまりました。ネットワークの方々の各地の語り、日本橋図書館員の語り、にほんばし語りの会の2人の語り、三者のコラボが実現します。どんな思いで語られるのか聞き手としてとてもワクワクしています。

今回の企画に私が心中深く思っていたことですが「にほんばし語りの会」のメンバーの方々にいろいろな語りを聞いてもらいたい、そして地域の人たちにも語りを届けたい…。二者を取り持った私の思いでした。およそ4年に及ぶコロナ感染症対策からやっと解放されての平和の語りです。世界では終りの見えない戦争が暗い影を落としています。未来に向けて夢の持てる平和の語りを実現出来たらいいなと思っています。

コロナ感染症対策時「にほんばし語りの会」はしばらく休眠状態でした。全国の語り手の皆さんはその中でも活動を無理のない範囲で再開するようになっていることが全日本語りネットワークニュースでも目にするようになりました。じっとしてられませんでした。本から覚え語りをする自分の中での老いや語り忘れが気になっていました。そこで会の代表に話を持ち掛け再開する手立てを相談し、メンバー全員が集まり話し合いました。これまでの年1回大人対象の語りの発表会は継続し、新たな方法を加え2022年10月より「大人のための語りの会」を毎月第1日曜日、語りの勉強会とし打合せの後30分。担当2名が交代で語るという時間を設け、図書館利用者が誰でも参加できること、語りが聴けるということを始めました。年間の語り当番を2名ずつ決め、その当番がチラシ、プログラムを作成します。語りは人に聞いていただいて成り立つ、いくら覚え練習しても伝える相手、聞いてくださる方がいないと張り合いが出てきません。人数は少ないのですが毎月足を運んで下さる方がいらっしゃる現実に心引き締まる思いをかみしめています。そうした中での有難い依頼でした。

語りの輪をこの日本橋図書館を核に、地域で展開出来たらなあ。「テラブレーション平和の語り 2024」日本橋開催がこの地域で花開くことを願い、皆さまのお出でをお待ちしています。